

# ノウリアスト錠<sup>®</sup>を服用されている 皆様とご家族の方へ

監修：藤田医科大学医学部脳神経内科学教室 主任教授

渡辺 宏久 先生

ノウリアスト<sup>®</sup>錠は、レボドパ含有製剤で治療中のパーキンソン病におけるウェアリング・オフ現象を改善するためのくすりです。

## ■ ウェアリング・オフとは

パーキンソン病の進行に伴い、レボドパ製剤の効果持続時間が次第に短くなり、1日のうちに、くすりが効いて症状が良い状態（オン状態）と、効き目が弱くなり症状が現れた状態（オフ状態）を何度も繰り返すようになります。この現象を「ウェアリング・オフ」といいます。

● オン状態には散歩や仕事など、通常の生活が行えます。

血中レボドパ濃度

オン状態

オフ状態

【オフ状態の例】



運動緩慢

動き出すのに時間がかかり、全身の動作がにぶくなります。



しんせん

振戦(ふるえ)

静止時に、手や足、あごなどがふるえます。

## このくすりの名前、有効成分など

|           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 製品名       | ノウリアスト <sup>®</sup> 錠20mg |
| 一般名(有効成分) | イストラデフィリン                 |
| 有効成分量     | 1錠中イストラデフィリン20mg          |

20mg錠(実物大)



PTPシート(実物大)



## 服用方法

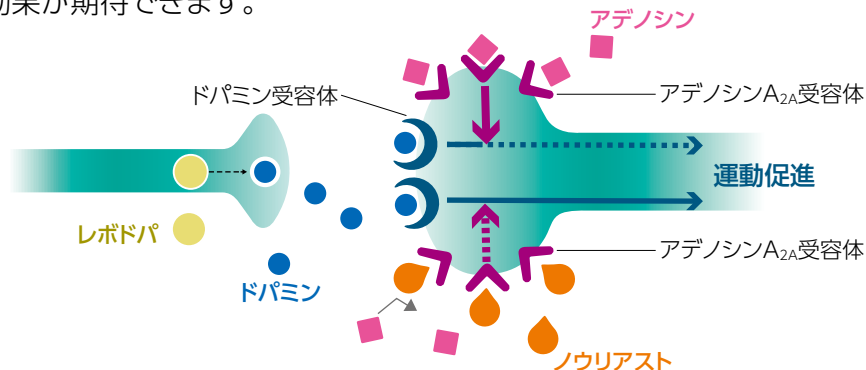
このくすりは、レボドパ含有製剤と併用します。  
通常、1日1回、1錠または2錠を服用します。医師の指示通りに服用してください。

### ■ 注意

- くすりを服用し忘れた場合は、気が付いたときすぐに1回分を服用してください。ただし、次の服用時間が近いときは忘れた分をとばして、次回から指示通りに服用してください。一度に2回分を服用しないでください。
- 自分の判断で服用を中止しないでください。

# このくすりのはたらき

**ノウリアスト®錠**は、脳内の「**アデノシン**」という神経伝達物質のはたらきを抑えることで、運動を促進します。脳内の「**ドパミン**」を補充するレボドパ含有製剤と併用することで「ウェアリング・オフ現象」を改善する効果が期待できます。



- **ドパミン**：運動促進にはたらく
- **アデノシン**：運動抑制にはたらく
- **ノウリアスト**：**アデノシン**のはたらきを抑えるお薬

## ●車のアクセルとブレーキに例えると…

### ドパミンの役割



**ドパミン**は、アクセルを踏んで、車を走らせるのに似ています。

### アデノシンの役割



**アデノシン**は、ブレーキを踏んで、車を減速させるのに似ています。

**ドパミン**はアクセルのはたらき、**アデノシン**はブレーキのはたらきをします。  
**ノウリアスト®錠**はブレーキをゆるめる役割にあたります。  
**ノウリアスト®錠**とレボドパ含有製剤を併用することは、効き過ぎたブレーキをゆるめて、車を走らせやすくすることにあたります。

# 副作用について

このくすりを服用していて、次のような症状がみられた場合には、主治医の先生または薬剤師に相談してください。

## ジスキネジア

首や手足・肩などがくねるように勝手に動く症状。



## 眠くなる、突然強い眠気がおこる

眠くなったり、突然強い眠気が見られる場合がありますので、自動車の運転、機械の操作、高所作業などの危険を伴う作業は避けてください。



かんせいがいそう

## 息切れ、呼吸困難、乾性咳嗽(痰を伴わない乾いた咳)



医療機関名